

11/5 新潟で「私学のひろば」開催

11月5日、埼玉、神奈川と並んで新潟で「私学のひろば2017」が開催されました。

にいがた私学助成すすめる会ニュース

子どもたちが学費を心配せず、学校で学べるように、私学の学費も無償に！

2017年11月14日

新潟県私学の公費助成をすすめる会  
新潟市中央区弁天橋通1-13-13  
TEL 025-246-7600

“若者が将来を語る社会を”  
私学のひろば2017開催

私学助成署名の目標達成にむけた決意の場にも

五日、新潟市内の新潟県教職員組合会館を会場に、「私学のひろば2017」が開催され、「若者が将来を語る社会を」をテーマに私学の父母・教職員・生徒、市民ら約120名が集い、学び語り合いました。

オープニングでは、各学校から集められた高校生らの写真を10分間のスライドにして紹介、生き生きと活動する高校生らの笑顔が参加者に深い感動を与えました(スライド作成は加茂晴星高校教員の長井拓さん)。講演では、ベストセラーとなった「下流老人」の著者で聖学院大学客員准教授の藤田孝典さんが、「若者が将来を語る社会を」“貧困世代”のいまと将来を考える」と題して講演しました。その後、私立高校の父母や卒業生、教職員をパネラーに、講演者の藤田さんも加わり、「教育のいまと未来を考える」をテーマにパネルディスカッションをおこないました。

また「ひろば」では、私学助成署名運動の終盤を迎えたことから、署名運動終盤セレモニーを開催、これまでの各校の街頭宣伝行動のとりくみの様子や終盤にむけた決意を父母や卒業生、教職員が語り、署名目標十四万筆の達成を誓い合いました。「ひろば」の最後には、集会アピールを参加者の満場の拍手で採択し、閉会しました。「ひろば」には、昨年引き続き、米山隆一新潟県知事からメッセージが届けられ、参加者に紹介されました。



「最大の少子化対策は、教育の無償化です」と語る講演者の藤田孝典さん(写真上)。開会あいさつをする私学のひろば実行委員長の笹川真理子さん(新潟青陵高校教員 写真右)。



「公立に落ちて、勉強に対するコンプレックスがあった。勉強が苦手な子が多いなかで、先生方がしっかりと受け止めてくれた」(卒業生)「中学生で不登校だった子どもが、いまは元気に通っている。父母の会や先生方との関わりが大きい」(父母)「希望を叶えるために大学進学を促すが、家庭状況から多額の奨学金を借りてまで生徒に大学をすすめているのかと悩むことも」(教員)など、私学教育の良さや奨学金問題など語り合ったパネルディスカッション。コーディネーターは新潟中央高校教員の木村英祐さん(右端)。

「私学助成署名運動は大切な運動」と藤田さん

講演の中で藤田さんは、日本の貧困率がOECD加盟国の中で上位にあることや若者層で貧困率が近年高くなっている現状、母子家庭などひとり親家庭に対する社会保障の不十分さをデータをもとに明らかにし、「未来への投資として教育費にお金をかけない日本のいまの現状を変えていかなければならない」と述べました。さらに「そのためには、おかしき声を挙げ続けることが必要で、四十年以上に渡り続けられている皆さんの私学助成署名運動は大切な運動だ」とも述べました。



司会を務めた新潟中央高校父母の藤早紀子さん(右)と同校教員の近藤誠倫さん。



街頭での私学助成署名のとりくみを通じて、署名の大切さを伝えた卒業生の二人。



集会アピールを朗読する関根学聖高校父母の妻谷美香子さん(右)と同校教員の土野祐成さん。